

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4076600081		
法人名	社会福祉法人 朝倉恵愛会		
事業所名	グループホーム ローズハウス いしずえ		
所在地	福岡県朝倉市入地2728番地1 (電話) 0946-52-1116		
自己評価作成日	平成 29 年 7 月 31 日	評価結果確定日	平成 29 年 10 月 11 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

平成15年4月開設より14年を経過した施設である。食堂からは遠くまで広がる田園風景や耳納連山の景色を楽しめる。敷地内の鳥小屋にはおしゃべりをするオウムや極彩色のインコがおり、丁度良い散歩コースとなっている。道を挟んでグランドゴルフ場があり、地域の方や、併設施設のご利用者とグランドゴルフ大会にてふれあい交流を深めることが出来る。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会	
所在地	福岡県春日市原町3-1-7	
訪問調査日	平成 29 年 8 月 25 日	

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

自然環境に恵まれた広い敷地に法人の関連福祉施設が隣接している。その一角に立地した事業所は明るく清潔で綺麗である。随所に季節感のある花や手づくりの小物が飾られ職員の愛情を感じることができる。職員は温かい笑顔と明るさを心掛け、利用者の背景や意向の把握に努め、心に寄り添う支援を行っている。豪雨災害時には事業所一丸となり地域高齢者の支援を行い、利用者・家族・地域住民とつながった。また停電灯を各居室や部屋に設置し、非常用備蓄等、新たな課題とし取り組まれている。

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅰ 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフルームに理念を掲示しており、出勤してきた職員は理念を唱和して理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	事業所独自の理念と法人作成のハンドブックを基に日々実践に向けて取り組んでいる。また法人終礼に参加し、サービスの提供場面を振り返り、理念の実践について発表を行っている。また日頃から話し合う機会を持ち意識づけ統一を図っている。利用者がその人らしく地域と関わりながら暮らしていけるように努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の花見や夏祭り等の行事に利用者も参加し、地域のお墓掃除、溝掃除等にも職員が参加し、地域の一員として、活動している。また毎年施設主催の行事には、近隣の方や保育園児も参加し、交流の場となっている。	利用者と職員は夏祭りや清掃活動など地域や学校行事に地域の一員として役割を持ち参加している。法人併設の施設と合同で、どんど焼き・グラウンドゴルフ・納涼祭を開催し地域の恒例行事になっている。保育園児の参加もあり、地域との付き合いを大切に世代間と交流している。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に利用者・家族・区長・老人会長・民生委員・駐在所・行政の方に参加して頂き、認知症について、意見交換を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議にて地域の情報や要望、家族の要望を聞いたり、アンケートをとり、出来る事から応じられるよう取り組んでいる。	定期的に運営推進会議を開催し、前回の会議の検討事項や報告などの議事録を玄関に掲示している。会議では、事業所や利用者の近況報告や日頃のケアの向上の取り組みを職員がワンポイント発表をし、委員から意見・要望・質問をもらっている。もらった意見はサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護に関する疑問点や問題点、不明な点は運営推進会議で、市町村に相談をしている。地域の事業者協議会に行政からも参加して頂き、協力関係を築く機会となっている。介護保険の改正や書類の申請時に窓口や電話で相談等をしている。	市町村へ出向き、担当職員と話し合いや相談を行っている。また問題点はその都度電話やメールで連絡し対応してもらうなど、関わりを持ち情報を共有し、共にサービスの質の向上に取り組む協力体制を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年身体拘束に関する研修会を行い、身体拘束排除宣言を掲示日々確認して、拘束がもたらす弊害は理解できている。危険回避の為玄関は時間帯を設定して施錠している。	定期的に研修会や勉強会に参加し意識向上を図っている。自己チェックを行い、お互いの気づきなど注意喚起を行っている。利用者の安全面に配慮しリサーチ＆ソリューション導入や職員の柔軟な対応で自由な暮らしができるように支援している。	

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止については日頃より研修会を行い、虐待と思われるような行為がないか確認し、虐待行為の意識を高め日々注意し、防止に努めている。また虐待に関する事件新聞等の情報を掲示し、虐待防止にも努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内にパンフレット（資料）備えており、運営推進会議等で、家族に説明を行っている、また外部研修や事業所内研修に参加することで、学ぶ機会を持っている。	制度に関して利用者や家族へ契約時に説明を行っている。家族から相談があった時はその都度、関係者で話し合い支援できるように取り組んでいる。外部研修の参加や伝達研修で職員は定期的に学ぶ機会を持っている。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書は入所時やその後変更、介護保険改正時に管理者からご家族に提示し、説明を行っている。質問や疑問点についても理解して頂けるまで、分かりやすく説明をしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの電話や来園時、気軽に声を掛け易い雰囲気を作り希望や心配事等傾聴に努める。家族への現状報告の際に、意見や要望を聞いており、職員全員で共有し、対策を検討している。運営推進会議ではこのような現状と対策を報告している。	運営推進会議に利用者や家族が参加し思いや意見を述べている。職員は利用者や家族の不安なこと、意見等を受け止めながら関係づくりに努め、意見や要望をもらえるように配慮している。朝食はパンが食べたいという要望があり、週1回はパンを提供するなど本人の生活サイクルに寄り添っている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員から出された改善提案を活用し運営に反映させている。提案の内容によっては加点がある。代表者・管理者と定期的に面談の機会を作り、意見や提案を聞いている。	管理者は職員と共に現場に関わり、コミュニケーションが取りやすい環境を心がけている。また代表者や管理者は職員と個別面談を行い、職員の意見や要望を聴く機会を設け提案された意見は運営に反映されている。利用者へのダメージに配慮し、職員の勤務体制・配置移動を抑え利用者と職員の馴染みの関係を大切にしている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己チェック表にて把握し、3ヶ月に1回の面談を管理者が行い、職員の要望や意見を聴き取り、やりがいのある職場環境づくりに努めている。又職能評価表を作成し、向上心が持てるよう整備している。働きやすい職場の為の委員会も活動している。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮してい生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の募集採用については法人が行っているが、性別や年齢等を理由に採用対象から排除していない、一人一人の得意な事を発揮できる職場作りや勉強会や研修会に参加し、スキルアップできるように支援している。	職員の募集や採用選考は法人が公正に行っている。代表者は年2回個別面談を行い個々職員の状況を把握している。職員のスキルアップに繋がる資格取得に向けた支援や職員の事情や状況に考慮し適材適所での勤務体制、向上心を持てる職場環境・条件の整備に努めている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権学習啓発に関する研修会を事業所全体で行っている、又外部での研修会講演にも自主的に参加している。	法人全体会議、勉強会や外部研修に参加し、伝達研修を行っている。職員はハンドブックを携帯し、機会あるごとに話し合い意識化を図っている。利用者の基本的人権は尊重されている環境である。人権教育・啓発活動に取り組んでいる。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回自己チェック表を提出、定期的に管理者役員との面談を設け、個々の目標を明確にしスキルアップに努めている。又受講可能な外部研修（認知症実践者研修等）は全員が受ける機会を持てるよう取り組んでいる。新人職員には指導が付き6ヶ月間はレポート提出、随時面談を行い業務内容の確認をしている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会に参加し、相互の施設見学、業務の問題点、事例検討、話し合い、ネットワークづくりを行い、内容については他職員にも情報を共有している。スタッフセミナーは出来るだけ参加するよう取り組んでおり、又所属する朝倉介護保険事業社協議会の同業者と情報交換をしている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の自宅や施設を訪問し、生活環境を確認し、家族や本人が困っている事、不安な事などを聞き取り、情報収集に努め、信頼関係の構築に努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントにより、本人の日頃の様子等の情報を伺いながら、家族の思いも傾聴し、関係づくりに努めている。何が必要なのかを十分に話し合い納得が得られるように努めている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずは施設の環境に慣れて頂ける事、命にかかわる事を第1に考え、本人、家族との話し合いにより、必要としている支援や要望を伺い安心してサービスを利用して頂けるような対応に努めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の御利用者の出来ることは生活の場から細目に把握し、コミュニケーションを取りながら、楽しく意欲がもてるよう依頼することで、「自分も役に立ちたい」という思い喜びをそのまま活かせるよう支援している。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が来園時に、本人の日頃の状況や思いをお伝えし、要望や心配事等を気軽に話して頂いている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の方や親戚関係等、いつでも面会できる体制であり、デイサービス利用者、地域の方からの面会希望があれば対応を行い関係の継続に努めている。	利用者や家族から馴染みの人・場や本人が大切にしている事・思い出について把握をしている。年賀状などで家族や知人との連絡を取り持ち、繋がりを継続出来るように支援している。これまで本人が大切にしてきた方々との関係が途切れないように関係者で話し合い取り組んでいる。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の状況や個性を尊重考慮しながら、利用者間の会話がすすむように座席の位置を考えている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	近所の散歩や買い物等で出会った時は状況を聞き、相談があれば聞いている。		

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常会話の中から思いや意向を聞き取り把握に努めている。困難な場合は日頃の生活状況を細目に把握し、言葉や行動から、気持ちを汲みとり本人本位に検討している。	職員は日々の関わりの中で、利用者の言葉や行動から、意思疎通が困難な利用者は、家族から聴取し、思いや意向などの把握に努めている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活環境が急に变化しないように、本人や家族より自宅での生活を尋ねながら、安定した生活が送れるように様に努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりその日の心身状態や、表情を見ながら、現状の把握を行っている。体調不良時や、行動に変化ある時は、ケース記録を記入し、連携を取り合っている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1度のカフェレンスや、問題発生時には、その都度会議を開き改善点を話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	本人や家族、主治医やユニット職員全員で気づきや意見を出し合い、個別具体的な計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリングを行い、6ヶ月毎又は状況変化に応じ随時介護計画の見直しを行っている。家族に説明し、了承の印をもらっている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日勤帯、夜勤帯と、記録を行い勤務交替時の申し送りで職員間での情報等をカンファレンスにて話し合い、計画に盛り込んでいる。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりのその時の状況に対して、家族や主治医と相談しながら取り組んでいる。その人の個性に寄り添った、回想法や、得意なカラオケを時間を定めずに、歌って頂く等、柔軟な支援に努めている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	夏祭りや花見等地域行事に参加し、また事業所のグランドゴルフ大会等で、地域の方との交流を図っている、花見用お弁当を注文し、家族と園庭にてゆっくり過ごしていただいた。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の希望するかかりつけ医と連携を密にしながら本人の体調管理に努めている。体調不良時は主治医、家族と連絡取りながら、必要時は往診や、家族対応にて受診対応して頂いている。受診時（入院時）は必要な情報提供を電話や書面にて行っている。薬局より薬剤師が薬を届けに来られた際、服薬上の相談や方法等尋ねながら適切に服薬介助が出来るようにしている。	本人や家族の希望するかかりつけ医への受診方法や基本的な通院介助の方法、情報伝達方法などについては話し合い、合意している。緊急時の受診は職員が行う。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	受診時は、本人の状況が分かる情報の記録を渡し適切な受診や看護が受けられる様に支援している。必要な情報や日常の気づきをかかりつけ病院看護師に電話にて連絡し、主治医につないでいただき指示を仰いでいる。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は書面にて情報提供し、病院に向き医療相談員との情報交換や、今後の支援について相談し合っている。退院時には主治医への情報が届けられ、指示を受けている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に終末期における確認書を交わしている。入所時に重度化に向けた方針について書面にて説明し同意を頂くようにしている。	重度化や終末期のあり方について、事業所の対応方針があり明文化し、利用開始時に家族などへ説明している。また状況変化に応じ本人、家族、関係者で話し合い合意を図り方針を共有し支援している。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年間研修計画の中で、定期的に急変時対応方法やA E D使用方法の研修を行っている急変や事故発生時は夜間でも主治医に連絡し指示をもらい対応しているマニュアルも作成している。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎晩夜勤者で避難訓練を行うことで、マニュアルを熟知している。年2回消防署の立ち合いにて防火避難訓練を受け、指導助言を頂いている。災害時には迅速に対応できるように地域の方に協力を依頼し、施設は避難所として提供している。定期的に職員全体で研修会を開き災害に対する意識を高めている。	マニュアルに基づき母体法人と消防署の協力を得て、合同で年2回、夜間を想定した避難訓練を含め行っている。収納スペースに食料・備品を備蓄している。豪雨災害時には、地域高齢者へおにぎりを提供し地域住民を支援した。	
【Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの人格を尊重し、言葉遣いや対応に気を配っている。本人のプライバシーに関する事はご家族と同意書を交している。個人の記録等は定められた所に保管し、目に触れないようにしている。	職員は一人ひとりの人格を尊重した、さりげない言葉かけや、居室やトイレではノックをしてから支援を行い、利用者の情報は職員のみ共有し、利用者尊厳とプライバシーの保護に努め、内部研修を行っている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話や、家族からの情報により、本人の思いや、希望を推測しながら言葉かけをし、やりたいことや、言葉を引き出すように努めている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課は有るが、一人ひとりが好きなカラオケや、塗り絵、テレビ観戦等自分のペースで取り組まれている。自室に戻り休まれたり、食堂で利用者同士世間話に花を咲かせている。探し物が始めると可能な限り見守る様にしている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣の際は、家族持込みの衣類と一緒に選んでいる。重ね着や厚着にならない様見守り声かけをしている。好きな色、好きな形の服を選び、自分らしく身だしなみを整えられるよう支援している。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を非常に楽しみにされている利用者がおられ、食事のメニュー説明を待ちきれず開始されている。気の合った利用者同士で談笑しながら食事が楽しめるよう、テーブルのメンバーには気を付けている。食後の片づけは茶碗を重ねていただく、テーブルを拭いていただく、お盆を拭いていただく等本人に出来る事をお願いしている。	職員と利用者は一緒に食事・片付けを行い、利用者と同じ内容の食事を同じテーブルで会話を楽しみながら食している。食べ残しなどから好き嫌いを把握している。月に1回の手作りおやつのもんじゅうや団子は楽しみの一つになっている。	
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	専門の業者に依頼しバランスのとれた食事を提供している。利用者の体調に合わせて、食事形態を変えている。水分量が確保できるよう、こまめに水分補給の時間を作り、提供し、本人の求めに応じその都度提供している。食事良水分量は記録し把握している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きを支援している。歯間ブラシを用意している利用者もおられ、必要に応じ職員が介助している。夜間は義歯を預かり、コップ歯ブラシと共に定期的に消毒している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄サイクルを把握し、タイミングを見計らい声掛け誘導している。夏場には、失禁の頻度を把握して、紙パンツから安心パンツ使用へと挑戦している。トイレの場所が分かりにくい利用者は床に印をつけ毎回声かけして自立に向けた支援を行っている。	職員は利用者の表情や様子を見ながら、排泄の声掛けを行い、尿・便意のない利用者には定時誘導を行い、排泄パターンや習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	多めの水分補給と朝食にヨーグルト・又は乳酸飲料を毎日摂って頂き、定時に食後の排泄誘導行う等、便秘予防に努めている。毎朝全員でリハビリ体操を行い運動の機会を作っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった入浴の支援をしている	入浴時間は設定しているが、一人ひとりの思いを察し、タイミングを見て入浴の順番を考え声かけし、気持ち良く入浴をして頂けるように支援している。待ち時間には体操や脳トレ、唱歌等グループワークを行い、洗濯物を皆で畳むなど利用者のパワーを十分発揮できる時間となっている。	週3回の入浴と利用者の希望に合わせて毎日入浴を楽しめるよう支援している。入浴を希望しない利用者には、言葉かけや対応の工夫を行い、臨機応変に一人ひとりのタイミング、個々にそった入浴の支援をし、一緒に歌を歌ったり、冬場にみかん風呂を楽しんでもらっている。	

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとり状態把握し、日中休息が必要な方は、自室に戻り休んで頂いている。夜の臥床誘導時間に眠れない方は、本人が安心して眠りにつけるよう、夜勤者が引継ぎ食堂や事務所にて、お茶を飲んだり、テレビを観たり会話をして共に過ごしている。		
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の処方箋は個別記録のファイルにとじており、現場でいつでも確認できるようにしている。薬の変更時は連絡ノート等で職員周知できるようにしており、状態変化等主治医に細目に報告している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や、入所後の生活状況から本人の能力の発揮できる場を見つけ床掃除・お盆拭きテーブル拭き・洗濯物たたみ等の役割を果たして頂いている。又グループワークでは、ゲーム・塗り絵・カラオケパズルボール遊び等の機会を作り一緒に参加されるが、それぞれ好きな分野で楽しまれている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の体調に合わせ施設周辺の散歩を行っている。年間の外出計画を立て、季節の花見や行事に参加して頂いている。家族参加で、一緒に花見をしながらお弁当を食べる等楽しまれている。	利用者の体調や希望に合わせた外出支援を行っている。日々の散歩や車で季節の花見へ、家族の協力を得て外出支援を行っている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則現金の所持は控えて頂いているが、本人がお金（財布）を持つことを強く希望し持つことで安心される場合は、家族と話し合い少額を持って頂く事もある。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話の取り次ぎ行いが、家族と話し合い、電話をしても良い時間を取り決めている。毎年家族への年賀状を職員と共に作り送っている。家族からの年賀状を本人に手渡し、見て頂いている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂玄関廊下は広々として解放感が味わえる。廊下は所々ソファが置いてあり、気の合う利用者同士談笑しながらゆったりと過ごされている。廊下や食堂には、利用者の作品や写真を掲示し楽しめる雰囲気づくりをしている。室温や湿度は数値を見てエアコンの調整を行い、居心地の良い空間作りに努めている。	リビングにはテーブル、ソファが配置され居心地よい空間作りが工夫されている。天井は自然の採光で明るく、壁にはイベントのスナップ写真、季節感のある利用者の作品などを飾っている。ペランダでは季節の野菜に利用者が水やりを行っている。	
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂のテーブルではテレビが見やすいように配置の工夫をしている。思い思いの場所に座り自分の好きな事をしたり、気の合う利用者同士横に座り談笑できる場所がある。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、本人が今まで使い慣れた家具や仏壇、家族の写真等持ち込まれ、安心して生活できるようにしている。居室にはトイレ・洗面所・エアコンが設置されており、居室中間にはついたてがあり、プライバシーにも配慮されている。	居室には利用者の家族写真や、馴染みの家具や飾り物が持ち込まれている。居室には家族と団らんができるように応接セットを置かれたり、居心地よく過ごせるように配置も工夫している。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下食堂トイレには手すりが設置されており、移動空間に出来るだけ物を置かないようにして安全に移動できる様に配慮している。居室内レイアウトはトイレへの移動が容易にできるようにベッドの位置を考え、危険箇所には衝撃を吸収するシートを張るなど工夫をしている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)		①ほぼ全ての利用者の
			○	②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)		①毎日ある
			○	②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
			○	③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
			○	③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目：30)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)		①ほぼ全ての家族と
			○	②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		①ほぼ毎日のようにある
			○	②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		①大いに増えている
			○	②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2／3くらいが
			○	③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅰ 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフルームに理念を掲示しており、出勤してきた職員は理念を唱和して業務に入り理念の実現に向けて日々取り組んでいる		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の花見や夏祭り等の行事に利用者も参加し、地域のお墓掃除、溝掃除等にも職員が参加し、地域の一員として、活動している。また毎年施設主催の行事には、近隣の方や保育園児も参加し、交流の場となっている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に利用者家族や区長・老人会長・民生委員・駐在所・行政の方に参加して頂き、認知症について、意見交換を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議にて地域の情報や要望、家族の要望を聞いたり、アンケートをとり、出来る事から応じられるよう取り組んでいる。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護に関する疑問点や問題点、不明な点は運営推進会議で、市町村に相談をしている。地域の事業者協議会に行政からも参加して頂き、協力関係を築く機会となっている。介護保険の改正や書類の申請時に窓口や電話で相談等をしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年身体拘束に関する研修会を行い、身体拘束排除宣言を掲示日々確認して、拘束がもたらす弊害は理解できている。危険回避の為玄関は時間帯を設定して施錠している。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止については日頃より研修会を行い、虐待と思われるような行為がないか確認し、虐待行為の意識を高め日々注意し、防止に努めている。また虐待に関する事件新聞等の情報を掲示し、虐待防止にも努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内にパンフレット（資料）備えており、運営推進会議等で、家族に説明を行っている、また外部研修や事業所内研修に参加することで、学ぶ機会を持っている。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書及び重要事項説明書は入所時やその後変更、介護保険改正時に管理者からご家族に提示し、説明を行っている。質問や疑問点についても理解して頂けるまで、分かりやすく説明をしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの電話や来園時、気軽に声を掛け易い雰囲気を作り希望や心配事等傾聴に努める。家族への現状報告の際に、意見や要望を聞いており、職員全員で共有し、対策を検討している。運営推進会議ではこのような現状と対策を報告している。年に一度利用者満足度についてのアンケート調査を行い玄関入口には意見箱を設置している。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員から出された改善提案を活用しており運営に反映させている。提案の内容には加点がある。又定期的や必要に応じて代表者や管理者との面談を行っている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己チェック表にて把握し、3ヶ月に1回の面談を管理者が行い、職員の要望や意見を聴き取り、やりがいのある職場環境づくりに努めている。又職能評価表を作成し、向上心が持てるよう整備している。働きやすい職場の為に委員会も活動している。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮してい生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の募集採用については法人が行っているが、性別や年齢等を理由に採用対象から排除しない、一人一人の得意な事を発揮できる職場作りや勉強会や研修会に参加し、スキルアップできるように支援している。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権学習啓発に関する研修会を事業所全体で行っている、又外部での研修会にも自主的に参加している。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回自己チェック表を提出、定期的に管理者役員との面談を設け、個々の目標を明確にしスキルアップに努めている。又受講可能な外部研修（認知症実践者研修等）は全員が受ける機会を持てるよう取り組んでいる。新人職員には指導が付き6ヶ月間はレポートの提出、随時面談を行い業務内容の確認をしている		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会の参加し、相互の施設見学、業務の問題点、事例検討、話し合い、ネットワークづくりを行い、内容については他職員にも情報を共有している。スタッフセミナーは出来るだけ参加するよう取り組んでおり、又所属する朝倉介護保険事業社協議会の同業者と情報交換をしている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の自宅や施設を訪問し、生活環境を確認し、家族や本人が困っている事、不安な事などを聞き取り、情報収集に努め、信頼関係の構築に努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントにより、本人の日頃の様子等の情報を伺いながら、家族の思いも傾聴し、関係づくりに努めている。何が必要なのかを十分に話し合い納得が得られるように努めている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずは施設の環境に慣れて頂ける事、命にかかわる事を第1に考え、本人、家族との話し合いにより、必要としている支援や要望を伺い安心してサービスを利用して頂けるような対応に努めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の御利用者の出来ることは生活の場から細目に把握し、コミュニケーションを取りながら、楽しく意欲がもてるよう依頼することで、「自分も役に立ちたい」という思い喜びをそのまま活かせるよう支援している。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が来園時に、本人の日頃の状況や思いをお伝えし、要望や心配事等を気軽に話して頂いている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の方や親戚関係等、いつでも面会できる体制であり、デイサービス利用者、地域の方からの面会希望があれば対応を行い関係の継続に努めている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の状況や個性を尊重考慮しながら、利用者間の会話がすすむように座席の位置を考えている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	近所の散歩や買い物等で出会えた時は状況を聞き、相談があれば聞いている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常会話の中から思いや意向を聞き取り把握に努めている。困難な場合は日頃の生活状況を細目に把握し、言葉や行動から、気持ちを汲みとり本人本位に検討している。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活環境が急に変化しないように、本人や家族より自宅での生活を尋ねながら、安定した生活が送れるように努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりその日の心身状態や、表情を見ながら、現状の把握を行っている。体調不良時や、行動に変化ある時は、ケース記録を記入し、連携を取り合っている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1度のカンファレンスや、問題発生時には、その都度会議を開き改善点を話し合い、現状に即した介護計画を作成している。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日勤帯、夜勤帯と記録を行い勤務交替時の申し送りで職員間での情報等をカンファレンスにて話し合い、計画に盛り込んでいる。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりのその時の状況に対して、家族や主治医と相談しながら取り組んでいる。その人の個性に寄り添った回想法や唱歌、また読書や新聞閲覧、パズル等柔軟な支援に努めている。		

社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	夏祭りや花見等地域行事に参加し、また事業所のグランドゴルフ大会等で、地域の方との交流を図っている、花見用お弁当を注文し、家族と園庭にてゆっくりと過ごして頂いた。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の希望するかかりつけ医と連携を密にしながら本人の体調管理に努めている。体調不良時は主治医、家族と連絡取りながら、必要時は往診や、家族対応にて受診対応して頂いている。受診時（入院時）は必要な情報提供を電話や書面にて行っている。薬局より薬剤師が薬を届けに来られた際、服薬上の相談や方法等尋ねながら適切に服薬介助が出来るようにしている。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	受診時は、本人の状況が分かる情報の記録を渡し適切な受診や看護が受けられる様に支援している。必要な情報や日常の気づきをかかりつけ病院看護師に電話にて連絡し、主治医につないでいただき指示を仰いでいる。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は書面にて情報提供し、病院に出向き医療相談員との情報交換や、今後の支援について相談し合っている。退院時には主治医への情報が届けられ、指示を受けている		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に終末期における確認書を交わしている。入所時に重度化に向けた方針について書面にて説明し同意を頂くようにしている		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年間研修計画の中で、定期的に急変時対応方法やAED使用方法の研修を行っている急変や事故発生時は夜間でも主治医に連絡し指示をいただき対応、マニュアルも作成している。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎晩夜勤者で避難訓練を行うことで、マニュアルを熟知している。年2回消防署の立ち合いにて防火避難訓練を受け、指導助言を頂いている。災害時には迅速に対応できるように地域の方に協力を依頼し、施設は避難所として提供している。定期的に職員全体で研修会を開き災害に対する意識を高めている		
【Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの人格を尊重し、言葉遣いや対応に気を配っている。本人のプライバシーに関する事はご家族と同意書を交している。個人の記録等は定められた所に保管し、目に触れないようにしている		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話や、家族からの情報により、本人の思いや、希望を推測しながら言葉かけをし、やりたいことや、言葉を引き出すように努めている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課はあるが、一人ひとりが好きなカラオケ、塗り絵やパズル、テレビ観賞読書や新聞閲覧等自分のペースで取り組まれている。自室に戻り休まれたり、食堂で利用者同士世間話に花を咲かせている。落ち着かれず移動される利用者は可能な限り見守り声掛けしている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族持込みの衣類を一緒に選んで着ていただいている。重ね着や厚着にならない様見守り声かけをしている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	気の合った利用者同士で談笑しながら食事が楽しめるよう、テーブルのメンバーには気を付けている。食後の片づけは茶碗を重ねていただく、テーブルを拭いていただく、お盆を拭いていただく等本人に出来る事を願っている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	専門の業者に依頼しバランスのとれた食事を提供している。利用者の体調に合わせて食事形態を変え、水分量は水分補給の時間を作り提供、水分量を確保している。食事量、水分量は記録し状況を把握している。摂取困難な場合はケース記録をとり、医師に相談する等の対策を行っている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きを支援している。歯間ブラシを用意している利用者もおられ、必要に応じ職員が介助している。夜間は義歯を預かりコップ、歯ブラシと共に定期的に消毒している。口腔内の汚れや臭い、痛み等あれば家族、医師に相談し治療や口腔ケアの指導を設けている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄状況に応じ、パットの対策等行っており、尿意のない利用者にも時間を見て誘導し、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	多めの水分補給と朝食にヨーグルト・又は乳酸飲料を毎日摂って頂き、定時に食後の排泄誘導行う等、便秘予防に努めている。毎朝全員でリハビリ体操を行い運動の機会を作っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	週に3回午後より、利用者の状態に合わせて入浴を行っている。待ち時間にはタオルを畳んだり唱歌などグループワークを行っている。また水分補給やおやつの提供もしている。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとり状態把握し、日中休息が必要な方は、自室に戻り休んで頂いている。夜の臥床誘導を待ちきれず早めに居室に戻り過ごされる利用者もいる。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の処方箋は個別記録のファイルにとじており、現場でいつでも確認できるようにしている。薬の変更時は連絡ノート等で職員周知できるようにしており、状態変化等主治医に細目に報告している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や、入所後の生活状況から本人の能力の発揮できる場を見つけ床掃除・お盆拭きテーブル拭き・洗濯物たたみ等の役割を果たして頂いている。又グループワークでは、ゲーム・塗り絵・カラオケパズルボール遊び等の機会を作り一緒に参加されるが、それぞれ好きな分野で楽しまれている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の体調に合わせ施設周辺の散歩を行っている。年間の外出計画を立て、季節の花見や行事に参加して頂いている、家族参加で、一緒に花見をしながらお弁当を食べる等楽しまれている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則現金の所持は控えて頂いているが、本人がお金（財布）を持つことを強く希望し持つことで安心される場合は、家族と話し合い少額を持って頂く事もある		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話の取り次ぎ行うが、家族と話し合い、電話をしても良い時間を取り決めている。毎年家族への年賀状を職員と共に作り送っている。家族からの年賀状を本人に手渡し、見て頂いている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂玄関廊下は広々として解放感が味わえる。廊下は所々ソファが置いてあり、気の合う利用者同士談笑しながらゆったりと過ごされている。廊下や食堂には、利用者の作品や写真を掲示し楽しめる雰囲気づくりをしている。室温や湿度は数値を見てエアコンの調整を行い、居心地の良い空間作りに努めている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂のテーブルではテレビが見やすいように配置の工夫をしている。思い思いの場所に座り自分の好きな事をしたり、気の合う利用者同士横に座り談笑できる場所がある		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、本人が今まで使い慣れた家具や仏壇、家族の写真等持ち込まれ、安心して生活できるようにしている。居室にはトイレ・洗面所・エアコンが設置されており、居室中間にはついたてがあり、プライバシーにも配慮されている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下食堂トイレには手すりが設置されており、移動空間に出来るだけ物を置かないようにして安全に移動できる様に配慮している。居室内レイアウトはトイレへの移動が容易にできるようにベッドの位置を考え、危険箇所には衝撃を吸収するシートを張るなど工夫をしている		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
Ⅴ サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：25, 26, 27）		①ほぼ全ての利用者の
			○	②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：20, 40）		①毎日ある
			○	②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：40）		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている （参考項目：38, 39）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：51）		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
			○	③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：32, 33）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 （参考項目：30）		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
Ⅴ サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)		①ほぼ全ての家族と
			○	②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		①ほぼ毎日のようにある
			○	②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		①大いに増えている
			○	②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての家族等が
			○	②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない